

〈体験の積み重ね〉

今日の山遊びは主に年中さんと年長さんを担当。初めはいつものように崖のぼりや笹やぶ探検をする。今日の山は土が乾いていたせいかとても登りやすい。個人差はあるものの、少しずつ難易度を上げて行ってもどのコースもみんなクリアしてしまっただ。特に遊び慣れている年長組はかなりの急斜面も難なく登ってしまう。中にはほとんど手を使わずに登ってしまう強者もいる。笹やぶこぎも両手を前に出し、顔をガードしながらの歩き方がしっかり身に付いた。何度も体験することで、体力だけでなく適応力も獲得した証拠だ。



探検の後、落ち葉を使って〈同じものを見つけよう〉をやる。枯れた杉の葉を一瞬だけ見せて「これと同じものを拾ってきてね」と指示。みんなちゃんと同じ葉を拾ってきている。「じゃあ、どの木から落ちてきたか探してごらん」と探してもらう。次は、ハリギリの葉を見せる。園児たちには“テングの葉っぱ”で親しまれている。これもすぐに見つけてしまう。最後は、ハリギリの実。落ち葉に隠れて見つけにくいのだが、ほとんどの子が見つけてきた。「どこかの木に同じものがついているから見つけごらん」と、まだ木に付いている実を探してもらう。かなり上の方だったが、すぐに見つかった。そして、ハリギリの葉と実を見せて「同じ木から落ちてきたんだよ」と話す。この山で何度も葉っぱや木の実で遊んでいるうちに、園児たちの観察眼は確かに鋭くなってきている。葉っぱは色の違いだけでなく、形や大きさ、鋸歯の有無、触り心地が違うことにも気づいてきた。体験を積み重ねることで、見えなかった自然が見えてくる。自然が見えてくると、そこにいるたくさんの命にも気づくようになる。そして、自分もその命と同じように生きていて、どこかで繋がりがあっているという見方もできるようになる。山での学びは計り知れない。